



「ぶんせき」電子掲示板

種々のアクセスルート

猫も杓子ものインターネットのブームは落ちつきを見せ始め、実用的に利用される方、何もなかったと離れる方様々でしょう。それでもますます増加するホームページは、あればよしの時代は終わり、中身が問われ始めています。当学会のホームページも前号でお知らせしましたように、より実用的な内容を盛り込んだページにするべく作業が開始されました。近日中にはリニューアルされたホームページがお目見えすることと思います。

さて、本欄でもインターネットへの高速アクセスとしてCATVの可能性を以前ご紹介しました。事実、一部のCATVでは、接続実験を開始したり、サービスを開始し始めたところもあり、高速接続を享受されている方もおられることでしょう。が、一挙に盛り上がるかに見えたこのルートに思わぬ障害が生じているようです。それは、多くのCATV局が採用を決定、あるいは内定していたCATV用のモデムを開発していた大手企業が突然撤退を表明したことによるようです。この影響で、サービス開始や、接続実験に大幅な遅れが出る可能性が高いとのことが報道されています。盛り上がりを見せていただけに残念ですが、早期な対応を期待しております。

一方で、モバイルコンピューティングがブームになってきています。こちらは主として携帯電話を利用した無線接続で、特性を活かした機動性が目玉でしょう。衛星を利用したサービスも開始され、ますます利用者が増加しそうです。先日のビジネスショーでもこの関連の展示がかなりのスペースを占めていました。私もポケットワープロの導入以来、重い思いをしてノートパソコンを持って行かずに済むようになり、重宝しています。しかし、宿泊先の電話がパソコン通信に使えず困ったことが多々あります。先日の新聞に、「テニス

のプロ選手は世界中を転戦しているので、パソコン通信（電子メール）を愛用して方が多い。でも、日本の宿舎では部屋からパソコン通信ができないところが結構多く、先進国日本がどうしてというのが多くの選手の感想、何とかならないものか」との内容の記事が載っておりました。同感です。移動通信もよいのですが、足下を固めたい。

「化学の広場」情報

本号で紹介する発言範囲

発言番号：395～474

期間：97/4/01～97/4/30

〔Q & A〕

キャピラリー電気泳動について<関連発言番号>(331), 395

MS/MSについて<関連発言番号>(391), 396, 397, 400, 405, 406, 409, 414, 419, 423, 425

GC分析の定量誤差について<関連発言番号>(387), 398

GC-MSで硫化水素は検出できますか<関連発言番号>(388), 399, 401, 402

COD測定について<関連発言番号>403, 407,

定量限界について<関連発言番号>404, 408, 412, 428, 430, 434, 437, 443, 445, 447, 452, 453, 454

0付近で連続な分析法について<関連発言番号>(367), 413, 418, 426, 433

核磁気共鳴を応用したコンピューター<関連発言番号>415, 420

キャピラリーGCの定量性について<関連発言番号>323, 416, 417, 435, 438

廃液処理方法は<関連発言番号>421

静電気の測定方法<関連発言番号>427

オリゴエチレンイミンの分析方法<関連発言番号>431

シュウ酸イオン標準液<関連発言番号>432, 466

日本質量分析学会の入会<関連発言番号>439, 444

キャピラリーGCのガードカラム<関連発言番号>440, 446, 448, 449, 450, 457, 458, 459, 460

LC/MSのESI法<関連発言番号>441, 455

マスディテクタについて<関連発言番号>451

メイラード反応生成物の分離法<関連発言番号>456

引火点の怪奇<関連発言番号>461, 462, 465

ダイオキシンの分析方法<関連発言番号>467, 468, 473

ダイオキシンが水道水源に及ぼす影響<関連発言番号>474

日本分析化学会ホームページのURL

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsac/>

〔タイトルサービス〕

「水情報」3,4号, 「ぶんせき」4号, 「環境と測定技術」4号
<関連発言番号> 410, 469, 424, 463

〔殆ど、当てにならない湿度計〕

<関連発言番号> 422, 442, 470

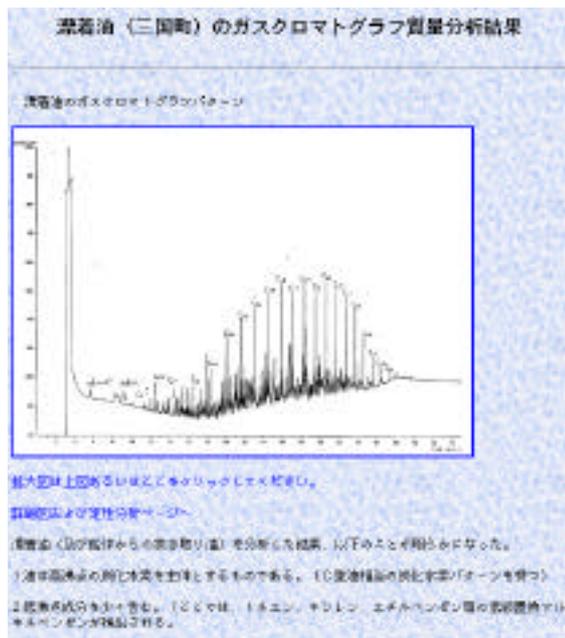
〔その他〕

「水情報」発行場所変更, 1997年3月のアクティビリスト, タンパク質のMSのセミナーのご案内, 環境と測定技術誌上でまとめをされている方

<関連発言番号> 411, 429, 464, 471, 472

インターネット情報

本年3号に、タンカー重油流出事故関連のホームページを紹介しましたが、多くのボランティアの活躍もあって回収作業も終了し、同事故の終息宣言が出されました。今後は、環境回復を見守って行く必要があると思われます。最近、環境庁・国立環境研究所のホームページ(<http://www.nies.go.jp>)内に、ナホトカ号重油流出事故関連環境調査のページ(<http://www.nies.go.jp/chiki1/nakho/>)が設けられました。このホームページには、流出重油のクロマトパターンや大気計測の結果など調査結果の一部が掲載されています(図参照)。



日本分析化学会ホームページ改訂情報

先に、お知らせしましたように、現在全面改訂作業に着手していますので、大幅な変更はありません。各会誌の最新号の目次が追加掲載されています。



航空機による重油流出のリモートセンシング観測

ナホトカ号流出重油の状況

観測位置(右上の観測海域の詳細図は、[下図またはここをクリックすると表示されます。](#))

計測などを行っている。なお、J-SCAN-AT-5M/11の仕様は次の通りであり、画面では、赤、緑、青の三色にそれぞれバンド3、2、1を割り当てている。青白く点在しているのが漂流している重油。

地上分解能: 約2.5m

観測波長帯:

- バンド1 (0.40-0.46)
- バンド2 (0.53-0.57)
- バンド3 (0.65-0.70)
- バンド4 (0.95-1.10)
- バンド5 (8.0-14.0)

「ぶんせき」誌、本欄そしてホームページへのご意見、ご要望やアイデアをお待ちしております。

〔「ぶんせき」編集委員会〕